

相対的貧困対策事業に関する打合せ備忘録

【日時】 2022年11月24日（木）13時30分～14時15分

【場所】 フードバンクみやざき事務所

【参加者】 フードバンクみやざき 代表 長友 都 氏
宮崎青年会議所 星山 剛、田所 伸吾

1. 今年度の連携事業について

・青年会議所と連携することで、貧困問題支援の周知という課題が解決に向けて前進した。支援団体のみの行動では、意外とマスコミは食いつかない。JCの事業と連携し、「(一般企業がメンバーである)青年会議所が貧困問題支援に取り組みました」という形をとる方が、マスコミとしても報道しやすい。

・貧困世帯支援のチケットについては、チケットを渡した後のフォローをどうするかが内部で共有できていなかったため、チケットを使ってもらえない、または使ってもらえても一部店舗のみという問題が発生していた。

・支援対象の生活状況が深刻な場合、そもそも事業実施場所までの交通費すらなかったり、虐待を受けているため外出ができなかったりして支援が行き届かないという問題がある。今回も、深刻だと思われる支援対象向けに1000円券配布の案内をしても、思っていたほど反応が芳しくなかった。500円券ぐらいにして対象者を絞らず配った方が、全体としては支援が届くことになるのかもしれない。

2. 連携について

当委員会の来年度の事業計画を説明した。

① フードドライブブース

5月開催の国際フェスティバルにおいてフードドライブブース設置をお願いしたいと伝えたところ、快諾を頂いた。

② ミニキッズニア、物販ブース体験

事業概要とガクセイ塾と連携する旨を伝えた。ガクセイ塾はフードバンクみやざきの子ども食堂でも学習支援を行っており、三者での連携も可能だろうとのことであった。

また、物販ブース体験については、昨年のえれこっちゃんみやざきにおいて「子商いマルシェ」とう取組みがなされており、当委員会で実施予定の内容と類似していることから、連携が可能ではないかとの意見を頂いた。代表者（戸越 正路 氏）が知り合いということで、ご紹介いただけることとなった。

3. その他

宮崎県の新規事業として、貧困世帯への食事支援及びフードロス問題への取組みを行う団体「宮崎県フードバンク協会」を新規に立ち上げるとのことであった。当該団体と連携できれば、支援対象者の情報も手に入る可能性があるとのことであった。

→県の事業であるためブロック協議会に情報提供を行う。

以上